

2015年12月27日(日曜日)の茨城新聞に 茨城県の支援について紹介されました



できたての揚げパンやベビードーナツが振る舞われた。常総市水海道橋本町

鬼怒川 決壊

「パンの缶詰」などで知られる栃木県のパン会社「パン・アキモト」(秋元義彦社長)のスタッフが26日、常総市水海道橋本町の空き店舗で、被災した地域住民らに対し「パンの缶詰」を配ったほか、揚げパンやベビードーナツを提供した。

秋元社長は1995年に発生した阪神淡路大震災の際、支援で送ったパンの大半が食べられることのないまま痛んでしまい、廃棄されたことがきっかけで、「長持ちする柔らかいパン」の開発に取り組んだ。試行錯

揚げたてパンどうぞ 栃木のメーカーで振る舞う

誤を重ね、約1年をかけて「パンの缶詰」の製品化に成功。その後は東日本震災などの被災地でも、各地の仮設住宅を巡って食料支援活動を続けている。

この日はサンタクロースの帽子をかぶった秋元社長ら6人が、用意した「パンの缶詰」約600食分を配布。また、機材を持ち込んで揚げパンとベビードーナツを調理し、出来たてを地域住民に振る舞った。

秋元社長は「困っている方にできる範囲で手を差し伸べるのは当たり前のこと。少しでも被災された方に喜んでもらえたらいい」と話した。

(石川孝明)